

第25回日本都市計画学会中部支部研究発表会の報告

第25回日本都市計画学会中部支部研究発表会が、平成26年10月18日(土)に名古屋学院大学名古屋キャンパス「白鳥学舎翼館」において開催された。昨年度(能登半島穴水大会)に比べ、参加者はそれほど多くはなかったが、午前中の研究発表会(参加者:約30名)、午後からのシンポジウム(参加者:約20名)、ともに熱い議論が交わされた。

午前中の研究発表件数は、一昨年度、昨年度と同じ14編で、その発表内容はパーソントリップデータを用いた世帯の自動車保有行動に関するものから、自転車の走行快適性を考慮した道路空間再配分の検討手法の提案に関するものまで、非常に幅の広いものであった。

1. 午前の部: 研究発表会 (10:00~12:40)

第一会場 第1セッション(司会:藤田素弘(名古屋工業大学))
「データ活用とまちづくりイベント」

(1)パーソントリップデータを用いた豊田市と名古屋市で世帯の自動車保有行動に関する比較研究(楊 甲・他2名)、(2)プローブデータを用いたPHVの電費・燃料推計式の作成に関する研究(楊 甲・他2名)、(3)すごろくによるまちづくりイベントに関する報告と考察~豊川市中心市街地地区における実践例の比較を通じて~(豊田章起・他2名)の3件の発表が行われ、会場からも多くの質問がなされた。

第一会場 第2セッション(司会:野嶋慎二(福井大学))
「アーティストによるまちづくりと空き家問題」

引き続き、(4)日本におけるアーティスト・イン・レジデンスの持続可能性に関する研究(伊藤巧也・他1名)、(5)建築基準法構造規定に関する既存不適格建築物問題についての考察(北本義郎)、(6)地方中核都市における空き家の動向と老朽空き家のクリアランスに関する考察(北本義郎)、(7)災害廃棄物の発生を考慮した応急仮設住宅の建設候補地選定に関する研究(佐藤明彦・他1名)の4件の発表があり、会場からも多くの質問がなされた。

第二会場 第1セッション(司会:嶋田喜昭(大同大学))
「バス交通」

(8)Cooperation of multiple agents around the park in both normal and emergency situations(Nemat Mohammadi・他1名)、(9)岐阜市におけるバス運行記録を活用した地域公共交通網検討に関する研究(杉尾恵太・他3名)、(10)運行形態と地域特性の違いによるコミュニティバス利用者の自治体間比較

(伊藤真章・他1名)の3件の発表があり、会場からもいろいろ質問が出された。

第二会場 第2セッション(司会:秀島栄三(名古屋工業大学))

「都市化問題と道路計画」

引き続き、(11)南京市の都市化に伴う交通混雑の変化に関する比較研究(小杉翠・他2名)、(12)新駅開業がもたらす影響・効果に関する研究~えちぜん鉄道町屋駅(仮称)を対象として~(三寺潤・他2名)、(13)住民ワークショップによる長期未整備都市計画道路の都決見直しプロセス(中村健太郎・他3名)、(14)自転車の走行快適性を考慮した道路空間再配分案の検討手法~名古屋市都心部の幹線道路を対象にして~(高橋典晃・他2名)の4件の発表があり、会場からも盛んに質問が出された。

2. 午後の部: シンポジウム (14:00~16:30)

「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に昨年度採択された福井大学(野嶋慎二教授)、中部大学(磯部友彦教授)、名古屋学院大学(井澤知且教授)から、COC事業における都市計画教育活動についての取組状況の報告があり、その報告をもとにパネルディスカッションが行われた。

パネルディスカッションでは、都市計画に関する様々な教育活動を通して、1)学生の成長が得られているのか、2)COC事業の良い点は、何なのか、3)逆によくはない点は何なのか、という視点で、議論が行われた。1)については、目に見えるほどの成長はなかなか難しく、昔に比べコミュニケーション能力が落ちているのではないかと。2)の良い点はいろいろあるが、これまで学内でバラバラに取り組んでいた活動が、COC事業として位置づけられ、まとまりつつある点が良い。3)の良くない点(悪い点)は、大学は何でもできると住民が思っており、すがってしまう点がよくないのではないかと、など様々な議論が行われた。

最後に、会場からもいろいろ意見が出され、学生のアイデアがもっとほしいが、主体性がないことも多く、なかなか難しい。地域と大学のつながりは、もっと長期的に考えた方がよいのではないかと。先生のやるべきことと学生でもやれることを分けるとよいのではないかと、など、多くの意見が出され、非常に盛り上がった。

(文責:金沢大学 高山純一)